

以て、日本政府に對し、各種勞働條件に關し、國籍、宗教、社會的地位等に依り差別待遇をせざることを、其の他左の如き覺書を送つた。

聯合國最高司令部一九四五年十一月二十八日附（CL O 經由）

AG三三〇・一四（二八四五）ESS/LA
NO四五

日本政府ニ對スル覺書

職業政策ニ關スル件

一、日本帝國政府ハ勞務者ニ對シ、民業ト官業トヲ間ハズ其賃金、勞働時間、勞働條件ニ關シ國籍、宗教、社會的地位ニヨリ差別ヲナシ又ハ許容スルコトナキ様確實ニ措置スベシ

二、朝鮮人、臺灣人及支那人ニシテ復員ヲ欲セズ日本ニ留ルコトヲ望ミシ者ニハ就業ニ關シ日本人ト比較シテ同等ノ權利、特權、機會ヲ保證スベシ

三、朝鮮人、臺灣人及支那人ニシテ引揚ヲ待チ居ル者ガ進駐軍ニ就業スルニ關シテ差別ナク其機會ヲ與フベシ斯ル勞務者ハ凡テ日本人勞務者同等ノ率ヲ以テ賃金ノ支拂ヲ受クベク且進駐軍ニ作業スル日本人勞務者ニ與ヘラル凡ニ恩典ニ與ラシムベシ

四、日本政府ハ復員軍人ニ對シ單ニ軍務ニアリシ故ノミヲ以テスル差別的就職入學ノ便宜ヲ規定スル種類ノ凡ニ法律命令規則、條例條項廢止撤廢ヲ指令ス

五、本覺書受領ノ通告及探ラレタル處置ノ報告ハ最高司令部ニ致スヤウ指令ス

在外同胞數調査

終戦後の在外同胞數に付外務省の發表に依れば昭

二十年十一月末現在で、その終戦當時、引揚及在留者數は左の如くである。

在外同胞員數調

外務省管理局調（昭和二十年十一月末）

地域別	終戦時	引揚済	在留現在
華北(含蒙疆)	三三,〇〇〇	九,〇〇〇	三〇,〇〇〇
華中	一四,〇〇〇	—	一四,〇〇〇
華南(含香港)	一六,〇〇〇	一,〇〇〇	一五,〇〇〇
滿洲(含關東)	一三,〇〇〇	—	一三,〇〇〇
北部朝鮮	三七,〇〇〇	—	三七,〇〇〇
南部朝鮮	四一,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一一,〇〇〇
樺太	五〇,〇〇〇	五,〇〇〇	四五,〇〇〇
臺灣	三〇,〇〇〇	—	三〇,〇〇〇
南洋群島	二四,〇〇〇	一,〇〇〇	二三,〇〇〇
シヤム	三,〇〇〇	—	三,〇〇〇
佛印	七,〇〇〇	—	七,〇〇〇
ビルマ	二,〇〇〇	—	二,〇〇〇
フィリッピン	一八,〇〇〇	九,〇〇〇	九,〇〇〇
舊軍政地域	四〇,〇〇〇	—	四〇,〇〇〇
計	三三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇

備考

(1) 南部朝鮮ヨリノ引揚者中ニハ滿洲及北部朝鮮ヨリノ引揚者ヲ含ムモ内譯不明ナリ。

(2) 終戦時在留同胞中ニハ原則トシテ現地召集者ヲ除キオオルモ實狀判明セザルモノアルニ付正確ヲ期シ難シ。

軍事保護院官制中改正及醫療局官制の制定

政府は軍事保護院を保護院に改正すると共に、新に醫療局を厚生省に設置することとし、昭和二十年十二月一日夫々左の如く官制の改正及新定を公布した。勅令第六百九十號（昭和二十年十二月一日）

軍事保護院官制中左ノ通改正ス
「軍事保護院」ヲ「保護院」ニ改ム
第一條第二號中「(軍人遺族)」ヲ「(遺族)」ニ、同條第三號中「(軍人家族)」ヲ「(家族)」ニ、同條第四號中「(軍人援護)」ヲ「(軍事援護)」ニ改メ同條第二號中「(療養)」ヲ削ル

第二條第一項中「(事務官 專任十九人)」ヲ「(事務官 專任四人)」ニ、「(理事官 專任二十五人)」ヲ「(理事官 專任四人)」ニ、「(技師 專任十六人 奏任一人ヲ勅任ト)」ヲ「(技師 專任七人 奏任一人)」ニ改メ「(醫師 專任二百九十六人)」ヲ「(醫師 專任五十一人)」ニ改メ「(醫官 專任三百八十五人 奏任四人ヲ勅任ト)」、「(調劑官 專任二十七人 奏任一人)」、「(看護婦長 專任六十四人 判任一人)」、「(看護婦 專任七十三人 判任一人)」ヲ削リ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

總裁ハ厚生大臣ヲシテ之ヲ兼セシム
第四條第三項中「(軍人遺族及軍人家族ノ援護並ニ管理局ノ主管ニ屬セザル軍人援護)」ヲ「(遺族及家族ノ援護並ニ管理局ノ主管ニ屬セザル軍事援護)」ニ、同條第四項中「(傷痍軍人ノ療養及職業保護軍人遺族又ハ軍人家族タル乳幼児ノ保育並ニ工營)」ヲ「(傷痍軍人ノ職業保護)」ニ改ム

第五條中「(傷痍軍人ノ療養、傷痍軍人若ハ軍人遺族ノ職業保護又ハ軍人遺族タル乳幼児ノ保育)」ヲ「(傷痍軍人又ハ遺族ノ職業保護)」ニ改メ「(療養所)」、「(又ハ保育所)」及「(醫官)」ヲ削ル

第六條中「(軍人援護)」ヲ「(軍事援護)」ニ改ム

第十五條、第十六條及第二十條ヲ削除ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ軍事保護院職員ノ職ニ在ル者(療養所又ハ保育所ニ屬スル者ヲ除ク)別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ軍事保護院書記官ハ保護院書記官ニ、軍事保護院事務官ハ保護院事務官ニ、軍事保護院理事官ハ保護院理事官ニ、軍事保護院技師ハ保護院技師ニ、軍事保護院職業補導官ハ保護院職業補導官ニ、軍事保護院屬ハ保護院屬ニ、軍事保護院技師ハ保護院技師ニ、軍事保護院職業補導官ハ保護院職業補導官ニ、同官等俸給ヲ以テ任ゼラレタルモノトス

本令施行ノ際現ニ軍事保護院ノ職員ニシテ休職中ノモノ(休職ト爲リタル療養所又ハ保育所ニ屬シタル者ヲ除ク)別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ休職ノ儘前項ノ例ニ依リ保護院ノ職員ニ同官等俸給ヲ以テ任ゼラレタルモノトス

前二項ノ規定ハ文官任用ノ資格ニ關スル規定ノ適用ヲ妨ゲズ

醫療局官制 (昭和二十年十二月一日勅令) 第六百九十一號

第一條 醫療局ハ厚生大臣ノ管理ニ屬シ其ノ國ニ於テ

醫療及保育ヲ爲スヲ要スル患者及乳幼児ノ醫療及保

育ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 醫療局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官 勅任

次長 一人 勅任

書記官 專任一人 奏任

事務官 專任二十人 奏任

理事官 專任三十二人 奏任

技師 專任三十九人 奏任 內七人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

醫師 專任四百六十人 奏任 內四人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

調劑官 專任三十二人 奏任

屬(技師) 專任三百二十五人 判任

醫師補 專任八十八人 判任

調劑官補 專任七十五人 判任

看護婦長 專任七十二人 判任

第三條 醫療局ニ專門委員ヲ置キ專門ノ事項ヲ調査セシム

專門委員ハ厚生大臣ノ奏請ニ依リ學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

專門委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

第四條 厚生大臣ハ局務ノ一部ヲ分掌セシムル爲病院、療養所又ハ保育所ヲ設ケルコトヲ得其ノ名稱及位置ハ厚生大臣之ヲ定ム

病院、療養所又ハ保育所ノ長官ハ醫官ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 長官ハ厚生大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ統理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第六條 次長ハ長官ヲ輔佐シ長官事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第七條 書記官、事務官及理事官ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第八條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第九條 醫官ハ上官ノ命ヲ承ケ醫療ヲ掌ル

第十條 調劑官ハ上官ノ命ヲ承ケ調劑ヲ掌ル

第十一條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十二條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十三條 醫師補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫療ニ從事ス

第十四條 調劑官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ從事ス

第十五條 看護婦長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ看護ニ從事ス

第十六條 第一條ノ患者及乳幼児ノ範圍ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國立結核療養所官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ軍事保護院職員ノ職ニ在リテ療養所若ハ保育所ニ屬スル者又ハ國立結核療養所ノ職員ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ軍事保護院事務官ハ醫療局事務官ニ、軍事保護院理事官又ハ國立結核療養所事務官ハ醫療局理事官ニ、軍事保護院技師ハ醫療局技師ニ、軍事保護院醫官又ハ國立結核療養所醫官ハ醫療局醫官ニ、軍事保護院調劑官又ハ國立結核療養所調劑官ハ醫療局調劑官ニ、軍事保護院屬又ハ國立結核療養所屬又ハ醫療局屬ニ、軍事保護院技師又ハ國立結核療養所技師ハ醫療局技師ニ、軍事保護院醫官補又ハ國立結核療養所醫官補又ハ醫療局醫官補ニ、軍事保護院調劑官補又ハ國立結核療養所調劑官補又ハ醫療局調劑官補ニ、軍事保護院看護婦長又ハ國立結核療養所看護婦長ハ醫療局看護婦長ニ同官等俸給ヲ以テ任ゼラレタルモノトス

本令施行ノ際現ニ休職中ノ軍事保護院職員ニシテ休職ト爲リタル療養所若ハ保育所ニ屬シタルモノ又ハ休職中ノ國立結核療養所ノ職員タル者別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ休職ノ儘前項ノ例ニ依リ醫療局職員ニ同

官等俸給ヲ以テ任ゼラレタルモノトス
前二項ノ規定ハ文官任用ノ資格ニ關スル規定ノ適用ヲ妨ゲズ

失業對策委員會官制の公布

現下ノ失業問題に對する綜合的對策を急速に確立し、且つ之を實行するため、之が審議機關として政府は失業對策委員會設置を準備中の所、其の成案を得たので昭和二十年十二月三日勅令第六百九十七號を以て其の官制を左の如く公布した。

失業對策委員會官制(昭和二十年十二月三日勅令第六百九十七號)

第一條 失業對策委員會ハ中央失業對策委員會及都道府縣失業對策委員會トス

中央失業對策委員會ハ厚生大臣、都道府縣失業對策委員會ハ地方長官(東京都ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ノ監督ニ屬ス

中央失業對策委員會ハ厚生大臣、都道府縣失業對策委員會ハ地方長官ノ諮問ニ應ジ失業對策ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

失業對策委員會ハ前項ノ外關係行政廳ノ諮問ニ應ジ失業對策ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス
失業對策委員會ハ失業對策ニ關スル重要事項ニ付關係行政廳ニ建議スルコトヲ得

第二條 中央失業對策委員會ハ厚生省ニ之ヲ置ク

都道府縣失業對策委員會ハ都道府縣(沖繩縣ヲ除ク)毎ニ之ヲ置キ都道府縣ノ名ヲ冠ス

第三條 失業對策委員會ハ會長及委員ヲ以テ組織ス

第四條 中央失業對策委員會ノ會長ハ厚生大臣ノ奏請

ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ジ都道府縣失業對策委員會ノ會長ハ地方長官之ヲ命ジ又ハ地方長官自ら會長ト爲ル

第五條 中央失業對策委員會ノ委員ハ三十人以内トシ都道府縣失業對策委員會ノ委員ハ二十人以内トス前項定員ノ外必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第六條 委員及臨時委員ハ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ中央失業對策委員會ニ在リテハ厚生大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ジ都道府縣失業對策委員會ニ在リテハ地方長官之ヲ命ズ

第七條 委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

第八條 會長ハ會務ヲ總理ス
會長事故アルトキハ會長ノ指名スル委員會長ノ職務ヲ代理ス

第九條 失業對策委員會ニ幹事ヲ置ク
中央失業對策委員會ノ幹事ハ厚生大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ジ都道府縣失業對策委員會ノ幹事ハ地方長官之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
第十條 失業對策委員會ニ書記ヲ置ク
中央失業對策委員會ノ書記ハ厚生大臣、都道府縣失業對策委員會ノ書記ハ地方長官之ヲ命ズ
書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

職業紹介委員會官制中左ノ通改正ス

第一條第四項ヲ削ル

第五條第一項中「四十人」ヲ「二十人」ニ改ム
第六條第二項中「厚生大臣」ヲ「地方長官」ニ改ム

生活困窮者の緊急生活援護

終戦後の社會情勢の急變に伴ひ、國民中生活困難に陥る者が益々増加し、之が至急援護の必要が認められたので、政府は昭和二十年十二月十五日生活困窮者緊急生活援護要綱を左の如く決定した。右に付き厚生省當局は各地方の實情に即し、速急具體的計畫を樹立せしむるため十二月十九日附を以て各地方長官宛別記の通牒を發した。

生活困窮者緊急生活援護要綱

(二〇・二・一五)
閣議決定

終戦後ノ國內現狀ニ鑑ミ特ニ生活ニ困窮セル者ニ對シ左記要領ニ依リ緊急生活援護ノ方途ヲ講ジ以テ當面セル生活困窮ノ状態ヲ匡救セントス

記

- 1、生活援護ノ對象ト爲スベキ者ハ一般國內生活困窮者及左ニ掲グル者ニシテ著シク生活ニ困窮セルモノトス
 - 2、失業者
 - 3、戰災者
 - 4、海外引揚者
 - 5、傷痍軍人及其ノ家族並ニ軍人ノ遺族
- 二、生活援護ハ援護ヲ要スル者ノ世帯ノ實情ニ應ジ左ノ方法ニ依ルモノトス